

ごあいさつ



本田技研工業株式会社 専務執行役員
安全運転普及本部 本部長

竹内 弘平

日頃から Honda の安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。今年も様々な活動に取り組んで参りましたがこれも皆様のお陰によるものと、この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

私どもはモビリティをつくるメーカーの使命として「事故に遭わない社会」の実現のために「Safety for Everyone」というグローバルスローガンに基づき、世界6極（北米、南米、欧州、アジア・大洋州、中国、日本）において、各地域の実情に応じた活動を推進しています。安全技術、安全情報、安全教育の3つの領域を進化、相互に連携させることによって運転者のみならず、歩行者・自転車利用者など交通社会に参加するすべての人の安全をめざしています。

しかしながら、WHO（世界保健機構）の指摘にもあるように、全世界でみると発展途上国、新興国を中心に年間125万人の方が交通事故で亡くなっていると言われ、深刻な状況であります。国連をはじめ、関係団体・組織が2020年を目標に、2010年比で半減するよう事故抑止に取り組んでいます。

一方、日本における交通事故の情勢を見ますと、2015年は負傷者数、交通事故発生件数は11年連続で減少したものの、交通事故発生から24時間以内に亡くなられた方は4,117人と15年ぶりに増加に転じました。本年は10月末時点では、死者数も再び減少に転じていますが、高齢社会が進む中、一層の事故死者低減には官民あがての効果的な対策が求められているところです。

このような中、今年政府は第10次交通安全基本計画を策定しました。東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年を目途に死者数を2,500人以下とし、世界一安全な道路交通社会を目指すという政府目標を達成するためには、さらに一段と取り組みの進化が求められるところです。

2014年に発表した先進安全運転支援システム Honda SENSING/AcuraWatch は、センサーなどを活用し車両の周辺情報をもとに通常走行時から事故回避まで運転を支援する先進安全技術の総称ですが、2015年には

日米欧でその搭載機種を拡大するとともに、さらにタイや中国でも搭載を開始しています。このような技術を着実かつより早く普及させながら、その先にある将来の自動運転技術につなげていきたいと思っております。

また、「急ブレーキ多発地点」や「事故の多いエリア」、「みんなが投稿した危険な地点」などを、ウェブ上で確認することができる地図サービス「SAFETY MAP」のデータを活用して具体的な道路改善や事故防止施策に役立ててもらおうよう、各県の警察や自治体に提言する活動も継続しております。Hondaの強みを活かしながら、情報という観点からも交通事故防止に向けた取り組みを進めています。

安全教育の領域につきましても、重点課題であります高齢者対策、とりわけ高齢歩行者への教育や幼児・児童から中高校生向けの教育などの普及を推進してきました。また、ここ数年力を入れております福祉安全運転活動では、運転復帰を目指す高次脳機能障がい者向けに地域の自動車教習所と連携し、近隣の病院やリハビリテーション施設と協力して、安全に運転を再開するというプロセスの拡大やリハビリテーション施設やデイケアセンターで高齢者の安全で安心な移動に従事している運転者向け教育プログラムの拡大を図ってきました。安全教育の領域でも社会のニーズに対応し、新たな視点や発想を取り入れながら活動の進化をめざします。

海外につきましても、アジアを中心にHondaの海外事業所が中核となって販売店と共に運転者教育のみならず子供たちの教育や様々な啓発活動も実施するなど積極的に交通安全普及活動を実施しています。今後も日本のノウハウの提供や人材育成など現地のニーズに応じた支援を継続して参ります。

Hondaは「事故に遭わない社会」の実現をめざし、これまで以上に行政、関係団体、地域社会など多くの皆様と連携を深めながら、交通安全に取り組む所存です。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Hondaへの変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。